

自治体文化行政が真の市民協働となるためには？ ～対等な関係構築に向けて

芸術の価値決定プロセスにおける市民協働 小金井アートフルアクションのアーティスト招聘準備事業を例に ＝中間報告＝

日本文化政策学会
佐藤・李・中村・有賀・遠藤・土屋・長岡
2010年1月9日

問題意識

文化政策を形成する過程は、芸術の範囲や定義を定める行為ではないか



「政策形成過程＝芸術の価値決定プロセス」と捉えることができる

事業

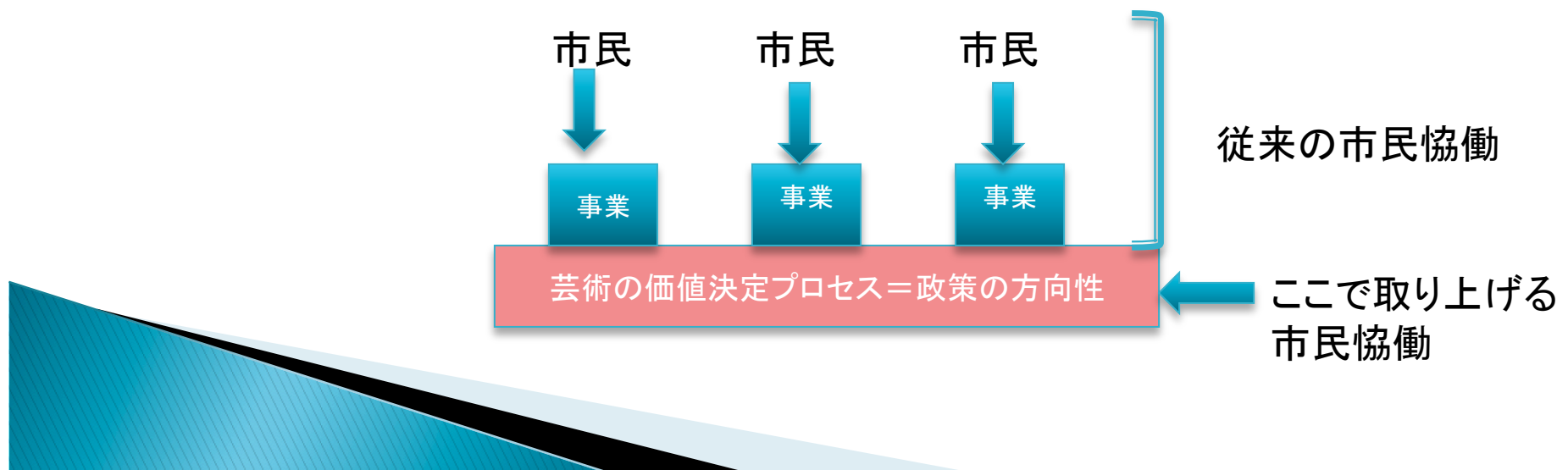
事業

事業

芸術の価値決定プロセス＝政策の方向性

問題設定

政策形成過程における「市民協働」とは、事業の参加ではなく、芸術の価値決定プロセスへの参加へ着目する必要があるのではないか



アーティスト招聘事業(小金井)

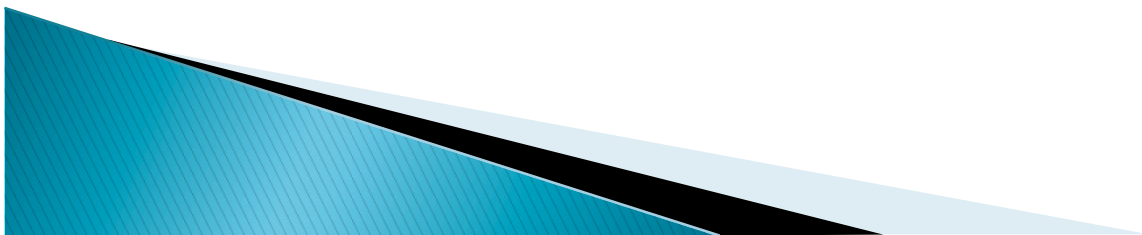
- ▶ 小金井市芸術文化振興計画推進事業
小金井アートフル・アクション！
- ▶ 事業の目的: **collaboration × laboratory**
「市民が地域資源や芸術文化の価値を発見し、さまざまな人々が共に芸術の創造へ関わる場所として小金井を捉え、事業を推進していく」
- ▶ アーティスト招聘事業
: 3年間(2009-11)の段階的なプログラム
 - 1年目 招聘準備事業 アーティスト決定
 - 2年目 作品制作・試演
 - 3年目 作品制作と発表

→ 1年目を取り上げる

アーティスト決定の基準

1. 運営から制作まで市民とのコラボレーションにより作品の創作・発表を行う
2. これまでの芸術や地域へのまなざしを変化させるような作品制作を行う
3. 誰もが表現者として存在できるような、市民を巻き込む作品の制作を目指す

小金井市芸術文化振興計画より



09年準備事業(アーティストを決定)

講座2回(アートの専門委員がアーティスト提案)

1. 工藤安代

2. 三ツ木紀英、大澤寅雄

→ 市民委員の募集と選定(講座参加者が対象)

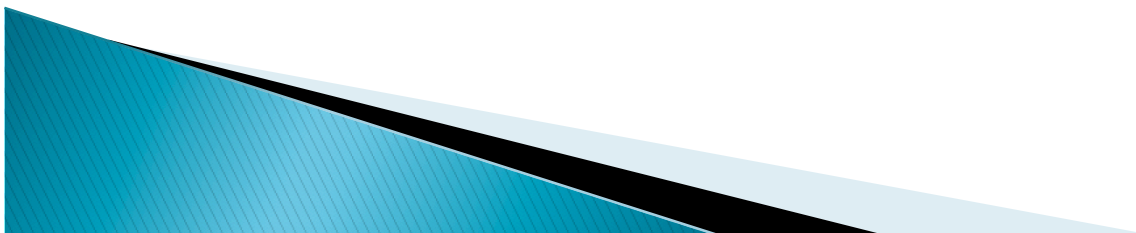
委員会6回(市民委員を含めて議論)

: 専門(3)、市民(3)、行政(1)、事務局(1)

アーティスト招聘準備委員会での議論 ①

1) 多様性:さまざまな人々が参加できること

住んでいる人が身近な環境で楽しめるようなもの
まずは何かが起こるような予感を感じさせるようなもの
多くの人巻きこまれるような魅力を感じるポイント
同時多発 → タイミングが限定される
→ 初めてやるには多発がいい
視覚とパフォーマンスで入りやすさが違う



アーティスト招聘準備委員会での議論 ②

2) 持続性：次へつながっていくこと

人材がつながっていく仕掛け

作品制作におけるパートナー（地域のネットワーク）

色んなことを相談、組んでやれるような市民

企画運営におけるパートナー

アーティストのサポートをする市民

1人のアーティストへ1～2人の担当スタッフ

市民マネジメントをするようなスタッフ

場（企画）に関わることで触発

市民が内発的に続け、発展させていける仕掛けを提示

（作家の作品の同じようなものを再生産するのではない）

アーティスト招聘準備委員会での議論 ③

3) 独自性: 小金井だから、できること

人・モノ・場所のマッチングをする、

地域文化として有効に機能するのではないか
自分たちも気づかない小金井の面白さを再発見
小金井の新しいライフスタイルが見えてくるようなもの
コミュニティを見直すきっかけとして期待

準備委員会の議論の結果

1年目のテーマ：地域資源の発掘とアーティストの出会い
アーティストの紹介（3組）
小金井の地域資源の紹介（情報の整理）
アーティストと地域資源の出会う機会（小金井ツアー）

選定されたアーティスト

ほうほう堂 岩井成昭 浅井裕介

選定にあたって交わされた議論

アーティストの作風、人間性、居住地

アーティスト招聘準備事業の成果と課題

＜成果＞

事業をつくるところから、議論の場を設定したこと

⇒ アーティスト選定、市民の関わりの議論

政策の方向性とアーティストの傾向

⇔ アーティストの方向性の決め方

＜検討課題＞

委員の役割

想定される課題と問題提起

価値決定の場への途中参加が困難になる
参加の余地と運動性(開いていく力)が必要になる



新参者の参加に障害が生じやすいという問題点があるのではないか。